



奉仕団ニュース

社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団

URL: <http://www.jcws.or.jp/houjin/houjintop>

第37号 2023年11月

Tel 03-3202-0486

Fax 03-3202-0487

見えないもの

理事長 わたなべ きょう
渡辺 教

2023年も残すところわずかとなりましたが、今年は5月以降、いままで数年間中止されていた行事、催事等が復活し、お出かけや旅行等の方が多くなりました。これから迎えるクリスマスや、お正月も楽しいものとなるでしょう。しかし、一方で悲しいことですが世界各地で、痛ましい戦争、戦闘、紛争が起きており、毎年発表される終末時計なる物騒な時計は今年1月に12時（終末）の1分30秒前を指しておりましたが、来年は1分を切ってしまうかもしれません。私たちの望んでいる平和な世界は今遠ざかっているようです。

日本キリスト教奉仕団では、各施設で新型コロナウイルス感染症の流行の収まりもあり様々な取り組みがなされました。座間のアガベセンターでは座間市から業務委託された「座間市立児童発達支援総合センター（愛称サニーキッズ）」が小松原の新しい場所で10月1日に開所となりました。これからの座間市の児童福祉に貢献していくことが期待されます。また10月には4年ぶりにアガベ祭が行われました。太鼓の演奏を始め様々な楽しい演芸や利用者さんの作品展示、座間市内の他の施設の出店等あり、当日は天候にも恵まれ1,000人の方が晴天の下、お祭りを楽しみました。アガベ作業所では企業からの受注も回復しており、今年度は工賃向上自主製品の販路拡大等など向上が期待されます。

板橋のアガベ東京センターでは中止されていた板橋区主催のスポーツ大会への参加など、楽しい活動がまた再開いたしました。新宿の福祉作業所ではパンの外部販売も好調で、また利用者の方の作品の販売やデパートでの絵画展などの活動も行われました。板橋区障がい者就労支援を行っているハートワークでも3年ぶりに外部活動のアクティビティを再開しており体操やボウリングに多数の方が参加されています。

本部のアジア研修交流事業ではモンゴルから第3回目の研修生を迎えて9月25日から3週間の研修が行われました。今回は研修では「障がい者の就労について学びたい」という研修生の希望に合わせたプログラムが生まれ、就労

支援現場を訪問して日本の福祉制度に触れ、多くのことを経験して帰国されました。

新型コロナウイルスで私たちは、目に見えないウイルスに悩まされてきましたが、世の中には目に見えないものがいかに多いことでしょうか。普段目に見えないものに気づかされるのはウイルスが私たちに悪さをしたときや、空気が動いた時の草木のゆれや匂い等でしょう。あなたは、このことを信じるか、信じないかという選択を迫られる場面があります。見えないと信じられないものが多いと思います。中には、初売りの中身の見えない福袋のように、セールスにひかれて期待が膨らむものもあります。自然科学者の人たちは、見えないところに期待を持って研究を続けていくようです。ブラックホールなどはその最たるもので、人間が見ることが許されない四次元の世界、見えないものを追いかけて研究がなされており、結局は写真に写った黒い点を以ってブラックホールとしています。

フランスの作家サン・テグジュペリは、著書『星の王子さま』の中で、「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えなくてことさ。かんじんなことは、目には見えないんだよ。」と書いています。私たちは見えないものの存在を、なかなか受け入れられないものですが、それが出来ることは素晴らしいことではないでしょうか。目に見えなくても、それを心で見ることは私たち人間に与えられた特権であり、また試練なのかもしれません。

聖書の中でパウロはこう述べています。「信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことがわかるのです。」と（ヘブライ人への手紙11-3）

日本キリスト教奉仕団はこれからも、眼にはみえなくても心の目でイエス様の教えを見て、福祉の具現化のために着実に歩んでまいります。これからの奉仕団の活動に皆様のご理解とご支援をお願いいたします。



「座間市立児童発達支援センターサニーキッズ 開所」

園長 永田 智子

2009年から実施してきた児童発達支援事業の定員を増やし、新たに4事業加えて10月1日に児童発達支援センターが開所しました。これまで子どもたちの降園後は静けさの中にあった事業所内では、「日中一時支援事業」が始まり、安心できる環境の中で思い思いに過ごす子どもたちの姿が見られます。兄弟児の都合や保護者のレスパイトなどを目的に利用ができ、好評を得ています。重症心身障害児や医療的ケアを必要とするお子さんを対象とした「放課後等デイサービス事業」も始まりました。市内に資源がなく、身近な地域で支援を受けられる場所としての期待が寄せられています。また子どもたちが過ごす集団の場へ向いて、環境や関りについて支援者とともに考えていく「保育所等訪問事業」も準備をしています。「障がい児相談支援事業」では子どもたちの状況に合わせて必要なサービスなどを考え、情報提供や橋渡しを行う役割も担います。また、センターには理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士などの専門職が配置されています。これまで培ってきた発達支援のノウハウと他職種の連携のなかで専門性の高いサービス提供を目指します。私たちはこれからもひとり一人の子ども・家庭を大切に想い、つながりある地域づくりに努め、身近な地域でのあたり前の育ち・生活の実現に取り組んでまいります。

「継続と新しい使命の実現に向けて」

アガペセンター総合相談室 室長 潮田 満

総合相談室では、障害者自立支援法が施行された2006年10月より「座間市障がい者相談支援業務」を座間市から受託してきました。本年度18年目となりますが、年々、地域の相談支援機関としての認知度が向上し、2022年度の実績は、延べ相談件数が5,302件、延べ相談人数は4,337件を数えるまでになりました。

その座間市の相談支援体制が、次年度から大きく変わる事となりました。これまでは、市内3事業所が座間市内全域を障がい種別で担当してきましたが、2024年度からは障がい種別に関わらず、座間市内を「北中央地区」「東南地区」「西地区」の3つの地区に分ける地区担当制に変わる事になりました。この変更に伴い、次年度からの事業者選定の公募型プロポーザルが、座間市で実施されました。当事業所も参加しましたが、プレゼンテーションでは、「引き続き当事業所が受託する事により、地域に根差した相談支援の実現と、孤立する事のない町づくりの実現に寄与できる」と私たちの思いをアピールしました。

10月30日に結果通知が届き、結果は選定。担当地区

は地元の小松原を含む東南地区に決定しました。精神障がい等、これまで主たる対象者ではなかった方も、次年度以降は相談支援で関わらせて頂く事になりましたが、これまでの活動の継続に加え、新しい使命を果たせるように取り組んでいきたいと考えております。

アガペ祭2023

サポートセンターI施設長 府川 孝臣

2023年10月14日(土)、4年ぶりに『アガペ祭』が開催されました。当日は天候にも恵まれ、暑さが心配される程の晴れ間が広がりました。佐藤座間市長をはじめ、多くの来賓の方々にも来場して頂き、ご祝辞を賜りました。また、想像を超える大勢の地域の方々にも来場して頂きました(主催者発表1,000人)。



当日は、14団体の出店(物販・食品)、アガペ祭では初めてのキッチンカー、3組のステージ発表が行われました。出店に関しては、コロナ禍前と比較すると、約半数となってしまいましたが、それでも、食品から物販、子供たちが楽しめるゲームコーナーなど、多彩なランナップでした。また、今回はキッチンカーにもご協力を頂き、行列が途切れることなく大盛況でした。ステージにおいては、江の島方面で活動されている『鈴鹿音神太鼓』の皆様に出演頂き、迫力ある演奏を披露して頂きました。演奏の前には和太鼓の体験会も開いていただきました。また、『実践空手道心温熟』の子供たちによる形の演舞・瓦割も披露して頂きました。例年と違った盛り上がりを見せておりました。

コロナ禍の影響を受け、2019年を最後に開催を控えておりましたが、5類に下がり、感染予防対策の徹底、意識の向上等により、開催への道筋が見え、アガペセンターとして、利用者の方々をはじめ、地域の皆様の期待に応えるべく、開催する決定をし、7月からアガペ祭実行委員会を招集し、準備を進めて参りました。無事に開催する事ができ、通常の業務の合間を縫って多忙な中、準備に協力をして下さった各課委員の皆様、駐車場をお貸し頂いた近隣企業の皆様、そして来場して下さった地域の皆様方に感謝をいたします。本当にありがとうございました。

アガペ東京センター

今年アーノルド・トインビー（1852～1883）の没後140年にあたります。トインビーは19世紀半ばに活躍した経済学者であり、同時に福祉活動家でした。「産業革命」という呼び方を世に知らしめ、そしてセツルメントとともに語られ、国家試験にも出題されることが多い著名な人です。

当時イギリスでは困窮する人に対し「救貧法」という法律がありましたが、施しを行うという側面が強いもので、事態が改善されないことを憂慮した大学人の有志はコミュニティー活動を組織し、困窮する人とともに生活を共にして仕事もし、かつ教育するという場を作りました。困窮する人と「ともに生き、ともに歩んだ」わけです。その一人であったトインビーは国民が遭遇していた大きな社会構造の変化（産業革命）が貧窮を呼び寄せてしまった経緯を研究しました。「産業革命史」この著作に示された考え方は、後にケンブリッジ学派を形成しマーシャルや、注目すべきは、ケインズにまで引き継がれ「厚生経済学」となって今日の社会保障に合流しているそうです。その後福祉サービスは長足の進歩を遂げましたが、トインビーが行った、理論と実践の一体性、問題への包括的な取り組み、そして全人格的なかわり等々 我々が学ぶことは沢山あります。記念碑的なトインビーホール開設は死の翌年1884年のクリスマスイブでした。今年のイブはトインビーを振り返る機会としたいと思っています。

参考文献： 阿部志郎 「福祉実践への架け橋」（海声社）

東京都板橋福祉工場

昨年の夏に行った MONICA の土曜日営業の反響が良かったため、今年も夏休みの期間に合わせて土曜日営業を行いました。平日は仕事で訪れることが出来ない利用者の



ご家族がお見えになり、近隣の家族連れも多く盛況でした。

地元で出産や産後の子育てを支援している neruco（「寝る子は育つ」から命名）という団体があります。昨年の夏休みに福祉工場で夏祭のイベントを行ったのですが、今年も開催。今回は福祉工場も含め協力した団体が8団体、昨年より大規模となり、400名以上の来場者となりました。MONICA では特別メニューを揃え、から揚げやフライドポテト、手作りゼリー等も販売しました。今後も夏の風物詩として継続していきたいと考えております。



4月から移行事業所の利用者が3名増えました。3名ともパソコンの練習を開始。同じ特別支援学校を卒業していますが、年代によってもまちまちのようで、皆さんローマ字が今一つ覚えきれていないため、そこからスタートしました。インターネットのサイトを中心に入力練習を行い、現在は3名とも数字の段を除いた3段のアルファベットをブラインドタッチで打てるようになりました。

受注作業では今までダイレクトメールの封入封緘をメインで行ってきましたが、ここ数年は少しずつ様子が変わってきております。アニメキャラクターやグループアイドルなどのアクリルスタンドの袋詰め作業が増えています。4年ほど前から取引を始めた区内の業者で、当初は個人で作成したアクリル板のキーホルダー（同人グッズ）が主流でしたが、ここ最近ではアクリルスタンドが主流で JAN コードのシールを貼る製品が増えています。手先を使う細かい作業ですが、利用者も支援員も根気強く、出来る利用者方が増えています。

国立国会図書館複写受託センター

国会図書館複写受託センターには現在障がい者職員3名を含む正職員11名、非常勤職員60名が在籍しています。業務内容ですが国会図書館内において館の所蔵資料の複写

業務サービスを行っております。現在、コロナ禍による来館利用制限がなくなり、コロナ禍以前の利用風景が戻ってきておりますが、それにもない資料複写サービスの利用数も増加しています。また、来館しなくとも国内外から資料複写が可能なサービスもあり、こちらの利用数は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった時期にも増えておりました。

今後も新型コロナウイルスの感染症予防に努めながら、利用者に安全と安心のもとサービスを提供できるよう運営に取り組んでおります。

新宿区立新宿福祉作業所

新宿福祉作業所は就労継続支援事業B型と生活介護の多機能型事業所として、現在65名(定員75名)の方が利用されています。2007年4月から指定管理者制度による運営を行い今年で17年目を迎えました。

今年度からイベントが再開され、パンや自主製品(アクセサリー)の販売依頼を多くいただいております。地域のお祭り、新宿区内ショッピングモール、デパート内での臨時出店、企業様からのご依頼に心より感謝申し上げます。

イベントが再開され、お声をかけていただけるか不安もありましたが、作業所の活動を覚えていただいたことに嬉しく思いました。ご利用者も自分たちが作った商品がイベントや企業様、店舗で販売できることに喜びを感じております。



群馬サファリパーク

9月のイベントに出店した際、パンと焼き菓子を購入していただいたお客様がもう一度ご来店いただき「美味しかったから、また買いに来ました。」とお声をいただき、10月のイベントでは「この前のお祭でも買いました。美味しかったです。」とお言葉に嬉しい気持ちになりました。

各イベントでは事前の案内ポスターにパン販売を載せていただき、開店を心待ちにいただいたお客様もいらっ

しゃいました。改めて皆様に支えられている作業所だと実感しております。

生活介護の新規アクティビティでは、月1回、戸山図書館との交流を行っています。図書館で本を読んだり映像を観たり、こちらから行けない日には図書館の職員さんが作業所へ来て、フィルム上映や映像で楽しむプログラムを提供していただいております。

また、今年度再開した「利用者旅行 1泊2日(群馬県)」も大きなニュースとなりました。4年ぶりとなる宿泊では利用者さんも久しぶりの旅行や交流を楽しまれ、職員も安心して楽しく過ごしていただけるよう準備や当日の支援を確認し実施しました。

外出することにより、利用者さんの作業所では見せない表情や楽しさを共有できたことは何よりの経験となりました。これからも一日一日を大切に安心して楽しく過ごせる作業所を築いていきたいと思っております。

板橋区障がい者就労支援センター

板橋区障がい者就労支援センター ハート・ワークは板橋区にお住まいの障がいをお持ちの方が、職業に就き、社会参加が出来るよう就労支援を行う事業所です。主な支援内容としては、相談、実習、就労準備、面接同行、通勤、職場適応、定着などが主な支援となっています。2023年9月末でハート・ワークの登録者は1,090人となっており、毎年50名くらい増加しています。新規の方の多くは特別支援学校を卒業されて、一般就労される方で、学校からハート・ワークでの支援へ変更されます。学校から一般就労される方は在学中にアセスメントを行い、どこに向かうことが最善かという判断を行います。この3年に及ぶコロナ禍で就労移行事業所によるアセスメントが出来ず、セルフアセスメントのような形になっていました。学校を卒業し社会に出ていくときの形は大切なものですが、就職した後に少し問題が出ることもあります。就職に対する心構えがまだできていない状態で、社会で働くということは、障がいを持つ方々に不安を与え、うまくいかないこともあります。企業の雇用率は上がっていき、企業側も広く門戸を開く形となりましたが、アセスメントの不足による不一致も出てきています。制度的には就労選択支援という事業も近い将来始まるようで、そこにはアセスメントの重要性が求められています。ハート・ワークでも単純に就労を進めるだけでなく、アセスメントをしっかり行えるよう、丁寧な面接や情報共有をしていきたいと思っております。

2023年アジア研修交流事業の報告

モンゴル5か年計画の3年目となるアジア研修交流の実施

「アジア研修交流事業」では、1980年からアジアの諸地域より障がい者福祉従事者を日本にお招きし、複数の障がい者福祉施設や企業を訪問して障がい者支援サービスについて学んでいただくという交流を行ってきました。

これまでに、アジア15の国や地域から85名の研修生を受け入れてきました。今年度は、「モンゴル5か年計画」の3年目として、7月に研修生を公募し、その中からバトラー エンクフトップシンさんをお招きいたしました。

エンクフトップシンさんは、ウランバートル国際大学の研修マネージャーの職にありながら、地方にある知的障がい者支援センターの専門員として活動しています。彼女が研修で学んでみたいこととして、知的障がい者に対する生活介護、就労に向けた訓練と就労後のケア、保護者に対する支援などがありました。

実際に3週間の研修を終えた感想では、「モンゴルでは、政府や自治体からの財政支援が無いが、あっても乏しいです。まだ知的障がい者への理解が欠けている



閉講式後の記念写真
(前列左から2人目が研修生)

るために、政府から支援を引き出すことが難しいです。」また、「就労施設や特例子会社を見学し、障がい者が生き生きと働いている姿を、モンゴルの人に話しても誰も信じてくれないと思います。モンゴルでは、障がい者を信頼して仕事を任せられる就労の環境が整っていません。知的障がい児の支援学校も幼児支援施設も障がい者相談センターもモンゴルにはなく、指導する先生も育成されていません。」そんな中であっても研修生は、「障がい者が働きやすいように色々な工夫がされていたり、一人ひとりに合ったサービスが為されていることがとても素晴らしいと思いました。帰国したら、自分たちのできるところから一歩ずつ、サービスの開設と改善に努めていきたいです。」と述べていました。



アジア研修交流で来日された研修生(中央)

研修生は、日本の歴史文化や自然に触れる機会もあり。研修観光として、浅草での人力車体験、江ノ島水族館や海岸ビーチでの散策など、初体験を楽しんでいました。

このアジア研修交流事業は、すべて皆さまからの寄附や

献金によって支えられ運営されています。この度、温かいご寄附や献金をお送りくださった方々に心から御礼を申し上げます。今後もこの事業の働きの意義を覚えてくださり、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

法人事務局

○法人役員等について

・2023年6月17日(土)に実施された定例評議員会において、これまでの理事、監事の任期終了となるため、この評議員会で、新たに以下の方々が選任されました。

また、同日実施の臨時理事会にて理事長及び常務理事が選任されました。

理事長	渡辺 教	常務理事	瀬谷 智明
理事	井殿 準	佐々木 章吾	鈴木 寛
	田口 努	田中 誠一	毛利 龍夫
監事	秋山 信義	後藤 省二	

※任期は2025年6月定例評議員会終結までとなります。

※小松田 貞利常務理事、園崎 秀治理事、西原 良信
監事は任期満了で退任されました。

・2025年6月定例評議員会終結までの任期となる評議員について、2023年6月9日(金)に評議員選任解任委員会が実施され、以下の方が選任されました。

評議員 牧 由希子 古市 慎

※任期は2027年6月定例評議員会終結までとなります。

※川浦 弥生監事は任期満了で退任されました。

退任された方々のこれまでのお働きに、深く感謝申し上げます。なお、コロナ感染症は5類となりましたが、理事、評議員会は基本的に集合及びZoomのハイブリッド形式にての開催といたしました。

○法人事務局体制について

法人本部事務局長の小松田 貞利、事務局職員の若生まゆみが2023年3月31日をもって退職となり、新たに事務局長として瀬谷 智明(せや のりあき)、事務局員として田沼 真巳子(たぬま まきこ)が着任しました。

YMCAを定年退職、縁あってキリスト教奉仕団の一員となりました。

本部事務局の体制も一新となりましたので、行き届かないこと多くあると思いますが、よろしくお願いいたします。

(瀬谷 智明)

【お詫びと訂正】奉仕団ニュース第36号にてお知らせいたしました募金者のお名前に誤りがありました。お詫びし訂正いたします。
(神奈川県) 盧 清貴様 ご協力ありがとうございました。

1. 法人の概要

名称 社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団
 所在地 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 代表者 理事長 渡辺 教
 常務理事 瀬谷 智明
 理事 井殿 準 佐々木 章吾 鈴木 寛治 田口 努 田中 誠一 毛利 龍夫
 監事 秋山 信義 後藤 省二
 評議員 鹿村 洋人 金井 之広 小出 千鶴子 野口 美加子 古市 慎
 牧 由希子 宮本 和武 百瀬 一成 山尾 研一 山田 秀樹

(2023年11月1日現在)

2. 事業の概要

①第一種社会福祉事業

・アガベ老番館：障害者支援施設（施設入所支援・生活介護・短期入所） 神奈川県座間市小松原 2-10-14

②第二種社会福祉事業

・アガベ作業所：障害福祉サービス事業（就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援） 神奈川県座間市小松原 2-10-14
 ・アガベサポートセンター：相談支援事業（一般・特別）「受託制度」
 障害福祉サービス事業（生活介護・短期入所） 神奈川県座間市小松原 2-10-14
 ・座間市障がい児・者基幹相談支援センター：支援事業所（相談支援事業所等の聴く、考える、
 学ぶ、地域ネットワーク業務）「受託制度」 神奈川県座間市小松原 2-10-14
 ・座間市立もくせい園：障害福祉サービス事業（生活介護）「指定管理者制度」 神奈川県座間市栗原中央 6-7-27
 ・座間市立児童発達支援センター：障害福祉サービス事業
 （児童発達支援・居宅訪問型児童発達支援・保育所等訪問支援・放課後等デイサービス
 ・障害児相談支援・日中一時支援）「指定管理者制度」 神奈川県座間市小松原 1-45-21
 ・スマイル：障害福祉サービス事業（共同生活介護） 神奈川県座間市相模が丘 2-32-24
 ・東京都板橋福祉工場：障害福祉サービス事業（就労移行支援・就労継続支援A型及びB型事業） 東京都板橋区高島平 9-42-7
 ・新宿区立新宿福祉作業所：障害福祉サービス事業（就労継続支援B型・生活介護）「指定管理」 東京都新宿区戸山 1-22-2
 新宿区立障害者福祉センター

③公益事業

・国立国会図書館複写受託センター 東京都千代田区永田町 1-10-1 国立国会図書館内
 ・アジア研修交流事業 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 ・アガベ診療所 神奈川県座間市小松原 2-10-14
 ・板橋区障がい者就労支援センター運営事業 東京都板橋区前野町 4-16-1 板橋区おとしより保健福祉センター内
 (2023年11月1日現在)

2022年度決算概要

2022年度決算概要は以下の通りです。詳細は、ホームページをご覧ください。

【貸借対照表】

資産の部		負債の部	
流動資産	477,335,317	流動負債	278,750,035
固定資産	1,923,054,968	固定負債	328,285,171
		純資産の部	
		基本金	53,665,544
		国庫補助金等特別積立金	1,224,806,336
		その他の積立金	135,603,956
		次期繰越活動増減差額	379,279,243
		純資産の部合計	1,793,355,079
資産の部合計	2,400,390,285	負債及び純資産の部合計	2,400,390,285

【資金収支計算書】

科目	決算
事業活動収入計	1,824,699,536
事業活動支出計	1,862,357,610
事業活動資金収支差額	-37,658,074
施設整備収入計	7,266,049
施設整備支出計	51,957,848
施設整備資金収支差額	-44,691,799
その他の活動収入計	45,015,671
その他の活動支出計	21,825,144
その他の活動資金収支差額	23,190,527
当期資金収支差額合計	-59,159,346
前期末支払資金残高	279,690,106
当期末支払資金残高	220,530,760

【事業活動計算書】

科目	決算
サービス活動収益計	1,816,778,959
サービス活動費用計	1,897,774,368
サービス活動増減差額	-80,995,409
サービス活動外収益計	7,920,577
サービス活動外費用計	10,661,610
サービス活動外増減差額	-2,741,033
特別収益計	7,446,187
特別費用計	8,070,013
特別増減差額	-623,826
当期増減差額合計	-84,360,268
前期繰越活動増減差額	436,154,682
当期末繰越活動増減差額	351,794,414
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	35,311,065
その他の積立金積立額	7,826,236
次期繰越活動増減差額	379,279,243